

鎌倉市教育委員会 平成30年7月定例会会議録

○日時 平成30年7月18日(水)
9時30分開会、11時28分閉会

○場所 鎌倉市役所 全員協議会議室

○出席委員 安良岡教育長、齋藤委員、山田委員、朝比奈委員、下平委員

○傍聴者 90人

○本日審議を行った案件

日程1 協議事項

平成31年度使用中学校教科用図書「特別の教科 道徳」の選定について

日程2 議案第10号

平成31年度使用小・中学校及び特別支援教育関係用教科用図書の採択について

日程3 報告事項

(1) 教育長報告

(2) 部長報告

(3) 課長等報告

ア 学校敷地内のブロック塀の安全確保対策について

イ 鎌倉市就学支援委員会委員の委嘱について

ウ 行事予定(平成30年7月18日～平成30年8月31日)

安良岡教育長

定足数に達したので委員会は成立した。これより7月定例会を開会する。本日の会議録署名委員を、齋藤委員にお願いする。本日の議事日程については、お手元に配付したとおりである。本日は、平成31年度使用中学校教科用図書「特別の教科 道徳」の採択関連のご審議をいただくわけであるが、教科書の採択については、これまでと同様にまず協議事項としてご協議いただき、その結果を踏まえ議案第10号でご審議いただくこととしたいと思う。

通常のだ例会においては、報告事項を最初に日程としているが、本日に限り教科用図書の選定に係る協議及び採択を最初に行った後に報告事項に入ることとしたい。なお、議事の都合上、日程1の協議が終わった時点で、一旦休憩を挟むこととするのでご承知おき願いたい。この間に議案の準備をさせていただくので、よろしく願います。

1 協議事項 平成31年度使用中学校教科用図書「特別の教科 道徳」の選定について

安良岡教育長

日程1、協議事項「平成31年度使用中学校教科用図書「特別の教科 道徳」の選定について

て」を議題とする。はじめに事務局から本日の資料である「平成31年度使用中学校教科用図書調査研究報告書」について、まず作成の経過、続いて報告書の内容について説明をお願いする。

教育指導課長

協議事項「平成31年度使用中学校教科用図書「特別の教科 道徳」の選定について」ご説明する。議案集は1ページを参照願いたい。

7月10日に鎌倉市教科用図書採択検討委員会委員長から「平成31年度使用教科用図書調査研究報告書」が教育委員会に報告されたので、この資料を参考に、平成31年度使用中学校教科用図書「特別の教科 道徳」の選定について、ご協議をお願いする。

まず、報告書作成までの経過についてご説明する。本年4月の教育委員会で「平成31年度使用教科用図書の採択方針」を議決していただいた。その採択方針に基づき、鎌倉市立中学校の平成31年度使用教科用図書「特別の教科 道徳」についての比較検討・調査研究を行うため、鎌倉市教科用図書採択検討委員会を5月に設置した。第1回検討委員会を5月8日に開催し、教育委員会が採択するにあたって参考となる資料を作成する旨を教育長から検討委員会に依頼した。検討委員会では、報告書を作成するにあたり調査員を置くこととし、調査員がまとめる専門的事項についての内容を確認した。第1回調査員会を5月16日に開催し、検討委員会からの調査内容を伝え、調査活動に入った。調査員会は、5月16日と30日、6月13日の3回開催し、調査資料を作成した。この調査資料を基に、第2回検討委員会を6月22日に、第3回検討委員会を7月4日に開催し、調査内容の検討をした。その結果を「総合評価の内容」として報告書にまとめた。以上が、報告書作成の経過になる。

続いて、報告書の内容について説明をする。報告書の内容だが、表紙をめくっていただき、1ページをご覧ください。左上に種目が示されており、表は左の種目から「発行者番号」「発行者略称」となっており、文部科学省から送付された中学校用教科書目録に示されたものとなっている。その次に「総合評価の内容」として、検討委員会で比較検討・調査研究した総合評価の内容を、教科用図書発行者ごとに記述した。この形式で8者全ての教科書の報告がされている。

次に、検討委員会で出たそれぞれの教科書会社の特徴を、いくつか報告させていただく。報告書1ページをご覧ください。

まずは、東京書籍。いじめ問題、生命尊重について複数の教材をまとめて取り扱っており、繰り返し学習することで、一つのテーマを多面的・多角的に考えることができる。杉原千畝についての教材では、小辻節三にも触れており、鎌倉市独自の道徳教材と関連付けて学ぶことができる。また、小学校の道徳と同じ教材を扱っているものもあり、考え方の変化から自己の成長や学びを感じさせる工夫がされている。

続いて、学校図書。学習指導要領で示されている四つの視点についての教材がどの学期でも偏りなく学習できるよう、教材が配置されている。各教材に「学びに向かうために」というコーナーが設けられ、生徒が見通しを持って考えることができるとともに、生徒の多様な感じ方や考え方を引き出すような、シンプルな発問例が設定され、授業を進めやすくされている。

続いて、ページをめくっていただき教育出版。3年間を通して「生命の尊さを考える」「い

じめや差別のない世界に」「情報とよりよくつき合う」の3点を重点テーマとした教材を扱っている。教材の末尾の「学びの道しるべ」には、自分のこととして考える際の助けとなる発問があり、何をどのように考え、話し合っていくかが示されている。

続いて、光村図書出版。編集委員会作の独自教材が多く、感性に訴える読み物教材を多く揃えている他、新聞記事、歌、漫画やポスターなど幅広い教材を用意し、議論を活発化させる工夫や、考えを深めるさまざまなアプローチをしている。教材の末尾に「学びの記録」があり、自分の学びを振り返り記入する欄が設けられている。

続いて、日本文教出版。いじめについての教材が複数連続して配置されている他、「プラットホーム」というコラムや資料などが教材の間にあり、教材で学んだことをより多面的・多角的に考え、深めていくことができるような工夫がされている。問題解決的な学習や、体験的な学習の教材には「学習の進め方」を設け、道徳の授業の学習をイメージしやすくしている。

続いて、学研教育みらい。全ての読み物が見開きで始まり、挿絵や写真、統計的なデータ等を掲載しているものもある。漫画が使われていたり、絵もイラスト風であったりと、教材や、教材の配置に飽きないような工夫がされている。内容項目に関する主題名が教材中に記載されておらず、特定の価値観を押し付けられることなく、自由に考えられ、生徒のさまざまな意見を引き出すことができる。

続いて、廣済堂あかつき。「生命尊重」「いじめ防止」に重点が置かれており、思いやりに関する教材や、命に関する教材を各学年取り上げている。また、現代的な課題として、裁判員制度について扱っている。別冊「中学生の道徳ノート」では、本文とは別の読み物があり、同じ内容項目を別の資料を使って、異なった視点から学習できる。

続いて、日本教科書。全国の地域題材を扱い、郷土や伝統文化、歴史に関する内容を多く取り上げている。3年間を通して同じ登場人物が出てくる教材では、自分たちと一緒に成長する人物の姿により、共感しやすく、自他の成長を感じながら学ぶことができる。以上が、それぞれの教科書の特徴になる。

また、今回の報告書とともに検討委員会会議の中では、鎌倉の生徒に学ばせたい、子どもたちにとってふさわしい教材になるのではないかという視点で、特に3者を推す意見があった。発行者番号順に東京書籍、光村図書、日本文教出版である。東京書籍では、巻頭に教材を通して考えが深められる学習の流れが示されており、「話し合いの手引き」に話し合いの方法が説明されていることで使いやすいというご意見があった。光村図書出版では、年間の学習が四つのシーズンに分けられ、学校生活の実態と生徒の成長が合う形の構成であることや、「学びのテーマ」により議論しやすい発問が設定されているなど、丁寧な構成であるというご意見があった。日本文教出版では、別冊の「道徳ノート」の活用により、ワークシートとしての機能があることや、5段階で振り返って自己評価することができるなど、使いやすいのではないかというご意見があった。以上で報告書についての説明は終わる。

平成31年度使用中学校教科用図書の「特別の教科 道徳」の選定については、鎌倉の生徒にとって、最もふさわしいものを選定いただくようお願いする。

また、調査内容の詳細に関するご質問には、検討委員会を担当した指導主事からお答えすることをご許可いただきたいと思いますと考えている。

安良岡教育長

それではまず報告書の作成の経過について、何かご質問などあるか。

(質問・意見)

特になし

安良岡教育長

質問がないようなので、続いて報告書の内容について質問をお願いしたいと思うが、この部分については担当の指導主事からということもあるので、その点ご了解いただければと思う。よろしく願います。

(質問・意見)

下平委員

お忙しい中、検討委員会でも委員の皆さん熱心にご検討いただき感謝する。今、詳しくご報告があったが、私ども教育委員ももれなく隅から隅まで検討させていただいた。その結果として、先ほど3者を推すということで最終的におっしゃっていただいたのだが、私どもも同じような感想を抱いた。ただ、これは私の個人的な考え方かもしれないが、東京書籍と日本文教出版、それから光村なのだが、特に光村が他の2者と何となく体裁が、全体的な作りが違うという印象を受けた。非常に国語の教科書に強い会社でもあるし、文章量がかなりが多いと感じた。他の2者と比べるとその点が重いのではないかと私は感じたのだが、特に光村の、他の出版社と違って他によいところはどこが挙げたのか伺いたい。

教育指導課長

検討委員会では、光村図書について先ほどご説明したものの他によいところとして、小学校で扱っている教材を中学校でもそれぞれ各学年で扱っており、同様の教材を中学生になってから扱うことにより、生徒自身に自らの成長を感じさせることができるようになっているという点などが挙げられていた。

山田委員

教科書の中では、一冊にまとまっているものと別冊があるものと大きく分かれていたが、検討委員会で別冊の考え方について何か挙げられているか。

教育指導課長

別冊になっている発行者は2者あり、まず1者目の特徴としては、ワークシートとしての機能があり教科書に挟み込み一つにまとめることで、生徒にとって使いやすく持ち帰るときや評価のときに便利であるのではないかというご意見があった。またもう1者の方は、本文とは別の読み物があり、この資料を使って異なった視点からの学習ができるなど、さまざまな使い方ができるというご意見が検討委員会ではあった。

山田委員

バラバラになって無くしやすいとか、使いづらいという意見よりは、どちらかというところでおっしゃったような肯定的な意見が多かったという理解でよろしいか。

教育指導課長

使い方にもよると思うのだが、ワークシート的に使える部分については、とても使いやすいのではないかとのご意見が多かったと思う。

下平委員

今、同じように別冊に関して先生方がどう考えていらっしゃるかというのを伺いたかったのだが、あともう一つ、サイズについて。全体的に、最近教科書のサイズは大きくなっていると思うのだが、光村と日本文教出版が同じくらいの小ぶりのサイズであるのに対して、東京書籍、教育出版、それから一番大きいのが学研なのだが、サイズの先生方はどうなのか。実際に、大き過ぎるということはないのか、意見として。

教育指導課長

その辺も検討委員会では話題になったが、他の教科書も今は AB 版のサイズがあり、特に道徳の教科書だけがことさらに大きいということはないというご意見が多かった。

山田委員

あともう一つ伺いますが、道徳の教科書というのはこうして見ていくと非常に、特に国語や社会と類似する、他の教科も理科もそうであるし、いろいろな他の教科の教科書を拝見した経験を経て見てみると、他の教科と似たり寄つたりの部分もあるのだが、道徳科の教科書と他の教科の教科書との扱いの違いを教えてください。

教育指導課長

教材として、やはり似た様なものは確かに扱われている。例えば、国語では文学教材だとか、社会では防災、歴史、環境など、他教科と共通する教材は確かに入っている。ただ、各教科ではその教科の資質能力を育成していくことを目的としており、例えば道徳科ではよりよく生きるための基盤となる道徳性を養うという目標やねらいがあるので、教材の扱いは異なっている。

安良岡教育長

他に質問はないようであるので、これからの協議の進め方について確認をさせていただきたい。委員の皆様には、これまででも事務局から事前に配付していただいた教科用図書の見本本について調査員の作成した資料、あるいは検討委員会の作成の報告書、それから各教科書会社の資料を参考にいただき、検討を進めてきていただいているところである。進め方としては、検討委員会からただいま報告のあった「平成 31 年度使用教科用図書調査研究報告書」に記載されている総合評価の内容等を基に、どの教科書が鎌倉の子どもたちにとって最適な教科書かご意見をいただきながら協議を進めて、最終的に採択候補を一つに絞っていく

こととしたいと思うが、いかがか。

(異議なし)

安良岡教育長

それでは、皆様に検討委員会から出された報告書の内容や教科書ごとに、ご覧になっていた感想、意見を出していただきながら、協議を進めてまいりたいと思う。よろしくお願ひする。それでは、委員の皆様から、これまで教科書を見てきていただいた、検討していただいた内容について、ご意見いただければと思う。

朝比奈委員

6月で3期目を拝命している。どうぞよろしくお願ひする。

今まで教科書採択に何度か携わらせていただいております、いろいろ各出版社の工夫による教科書を見てきた。それぞれすごく努力をされていて、もちろん体裁ばかりではなく一番は内容を工夫していらっしゃるのだと思うが、私はお寺のお坊さんなので、もしかしたら皆様と若干視点が違う偏った見方をすることもあるのかもしれないが、先ほどお話にあった3者は、本当によくできている。さすが光村図書などは、伝統的な光村フォントという字体がある。見ていて目に優しいというのはまさにそのおかげなのだろう。国語の教科書のようにもある。この紙の白さが、あえて真っ白ではなく目に優しいよさというのがあったりするわけなのだが、そういう意味では本当にどれもよくできている。道徳を学ぶときに私などは一つこういう立場から申し上げると、伝統的な信仰の世界みたいのをこういうところで表現するというのはできないだろうと思っております、あえてそれをするべきだとは申し上げないが、あくまでも公教育であるから、こういう世界を教科の中で表現するというのはかなり難しい点があるかと思う。であるから、例えば新しく参入した日本教科書などは、割とそういう表現があるのだが、私はこういう考え方は偏った意味ではなくて、日本人的に是非知ってほしいと思っております。でもこれは多分学校教育というより私どもの役割であって、なにも学校教育の場でそれを先生方に委ねるのは難しいと思われるので、これはあくまでも私の感想として日本教科書の取組というのは、ある意味特徴として評価するが、やはりここは一つ先ほど挙げられた3者の中で選んでいきたいと思っております。

こうして拝見すると、最終的には中学生が見て意欲的に授業に取り組めるのか、先生方がこれを使って子どもたちに対して興味を持って授業が進められるのか、いろいろな学校訪問をしたときに授業を拝見していて、先生と生徒とが一体になって楽しんで授業ができるような、そういう助けになるような本であってほしいと思う。そうすると私などは杉原千畝さんなども取り扱っているし、東京書籍などもよいと思っております。いずれにしても、先生方と生徒の皆さんの授業の様子を想像しながら、私は考えたいと思っております。

齋藤委員

私も、いろいろな角度から読んでまいった。そして、生徒がどのような形で先生と授業が展開していかれるのかや、より広い心、より深く考えられるような教材でありたいと、そんなことも考えながら読んできた。先ほど3者あった、光村、東書、日文なのだが、先ほどか

ら出ているように、光村については国語の教科書という流れも今までも経験してまいっただけで、何か落ち着くという思いとか、優しいということも感じた。また、「つぶやきコーナー」があって、使い方だと思うのだが、そういうところに心のメモを軽くして、そうすると次に皆さんと話し合いをするときによりしっかりとした考え、また考えを変えていく、移っていくそんなこともできるかとも思ったし、自分の身近な問題として捉えられていくかということも考えてきた。今日的課題について、やはり大事に扱っているという思いも持っている。

それと同じように東京書籍だが、教材が現在の身近な話題で、写真も多く生徒が興味を持って取り組んでいけるのではないかと、そういうよさも感じた。自分の学びを振り返ろうということで自分を見つめ、そして周りを見つめることもできるという、そのような素晴らしいものも感じている。自ら考え、話し合い、そして考えを新たに生み出していく、しっかりとした生き方を考えていけるのではないかと感じている。

それから日本文教出版については、今、大事なはじめというのはどこにも使われているのだが、そういうことがあったり、それから心打つ教材も入っていた。「プラットホーム」というのがあるのだが、そこでは「心の様子をチェックしよう」「自分を振り返ってみよう」といったコーナーもあるのだが、このあたりについては学習内容を振り返ったり、考えたり、視野を広めていくという役立てに使うとよいのかと思う。

あと、教育出版について少し考えを述べさせていただくが、教育出版については字が大きく読みやすくなっている。それからカラー刷りで、はっきりとしている、また訴える力もあったとそんな気持ちも持っている。そして、簡潔で要領よくまとめている部分もある。それから、「学びのみちしるべ」の中で自分のこととして他面的に振り返りができるように発問例が出ている。そんなこともあるのだが、読みやすい教材もある、読んでほしい教材というようなことも考えていって、道徳として扱うことの大事な部分もあると思いながらも、道徳の教科書として何が一番適切かというようなことは、考えていかなければいけないと改めて感じているところである。

もう1者、あかつきについて一言お話させていただきたい。廣済堂あかつきだが、タイトルがよいと思った。それは自分を見つめる、そして自分を考える、自分を伸ばす、見つめ、考え、伸ばしていく、人間として生きるために大事な部分を押さえているというようなことも思った。ただ、道徳ノート、別冊があるわけなのだが、これも心の記録として別冊がついているのだと思うのだが、少し量が多くて使いづらいかということ。それともう一つは言葉、教科書をずっと読んでいったら言葉が硬い、少しすっと入ってこない。私が入っていかないだけかもしれないのだが、少し文章表現が硬かったり、子どもたちにすっと入っていくような、軽く入っていくようなものではないというようなことも思い、先ほどお話ししたように、光村、東書、日文等で考えてまいりたいと思っている。

下平委員

皆さんおっしゃっているように、各者とも取り上げるべきテーマをもれなく取り上げつつ、さまざまな工夫が凝らされているし、それから振り返りだとか、役割演技や話し合いを盛り込むような構成なども素晴らしいと思った。私も何段階かに分けて検討を個人的に重ねたのだが、最初に4者よいと思ったのが、東京書籍、日本文教出版、学校図書、教育出版。教育出版に関しては、まずは扱いやすいサイズであるということ。それから、都道府県にゆかり

のある人物と名言が取り上げてあり、特に神奈川県にゆかりのある人物としては二宮尊徳や小柴昌俊さん、吉川英治さんなどの名言が取り上げられていて、非常にこの部分がよいと思った。それから「学びの道しるべ」という項目が教材の末尾についているのだが、これを振り返りながら検討できるようになっている。それと最後に、例えば1年生だと、どのような2年生になりたいかというようなことを自分でイメージして未来を考えて、2年生につなげる。そしてもちろんどのような3年生になりたいか、ということも2年生のラストで振り返る。そして3年生ではどうなるのかと思ったら、20年後の自分はどのようになるのだろう、という問いかけがあり、副題として「飛び出そう未来へ」というのが付いているのだが、非常に未来を考えるというところが打ち出されていると思った。それから、写真とかイラストなども盛りだくさんに使ってあって、変化があって魅力的な教科書づくりだと感じた。

学校図書に関しては、タイトルが「かがやけ未来」となっている。ポイントのマークが10種類、非常に分かりやすく活用されており、そして全体的な表紙も含めて、色合いやバランス、それからページによる変化などがよくて、楽しみながら学べそうだと思った。サイズが少し大きめなのだが、実際に何度か机の上で開いてみると、他の大きめのサイズの会社さんと比べると非常に開きやすいというか、落ち着くように感じる。閉じてしまわないで、広げやすさもよいと思った。各章に「学びの記録」というページがあって、各章の学びをしっかりと振り返って学べるように作ってある。それから合間に「こころの扉」というページがあって、多角的に視野を広げて、いろいろな見方を考えられるような工夫もなされていると思い、学校図書も魅力的だと考えた。

あとは検討委員会でも発表してくださっているように、東京書籍に関しては非常にバランスがよくて、全体的に好感が持てた。それから物語、伝記、実話、写真、漫画など変化があってバランスもよかった。それから「いじめのない社会へ」というテーマと、「生命尊重」というテーマ、この二つが非常に大切にされているということは、検討委員会の方もおっしゃっているように感じた。それから「郷土のことを考える」というページもあり、ここも非常によい取扱い方がなされていると感じた。

あと、杉原千畝さんのことは取り上げていらっしゃる会社さんが多かったのだが、東京書籍に関しては、鎌倉にお墓があるということまで取り上げて下さっていた。鎌倉にとってはありがたいと思った。それから鎌倉の小・中学校でも、プリントを配って勉強していただいていたが、小辻節三さんに関しても取り上げてくださっている。

日本文教出版も同じく、サイズは小さめなのだが、非常に彩り、イラスト、変化した生き生きとした構成であった。一番、私がここがよいと思ったのは、中学生にとって非常に親しみやすい、なじみやすい、取り組みやすいテーマを、的を絞って取り上げて下さっていると感じた。そこで、日本文教出版はとてもよいと思った。一つ、別冊に関して挟みこんでいるのがどうかとは思ったが、先ほどお返事があつたとおり、使い方によっては別冊も使いやすいのではないかとのことなので、その点は問題ないのかと思った。合間、合間のプラットホームのページは非常に活用しやすいし、新任の先生方にも使いやすい工夫がなされているのではないかと感じた。

これら4者を挙げたが、最終的には東京書籍、それから日本文教出版、学校図書、この3者に私は最終的に絞りこみをした。

山田委員

今回、8者の道徳の教科書が手元に届いたときに、まず改めて道徳が教科化されたことに関してどういう目標があったのかを振り返った。その中では、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるといったものがあった。これに一番即した教科書を選びたいと思って見てまいったが、まずはこれを真っ向から中学生に掲げても、これを積極的に自分たちで身につけていくというのは難しく、それだけいかにその学びの場に結びつく題材を学校が提供して、また教師がそれをどうやって生徒の心の奥を引き出しながら多様な意見が溢れるようなクラス作り、授業作りというのを展開できるか、これが非常に重要だし、授業の運営力が問われるのかと思いつつ見てきた。そのための題材として最適な教科書と思ったのだが、どれを見ても年間35時間という授業時間に対して非常に盛りだくさんだと。やりきれないのではないかという印象を持った。しかし、道徳に関しては全てを最初から最後までやらなければならないのではなくて、必要だと思う部分から授業に入ってもよいということも聞いているので、選択肢が多いのも悪くないのかと思っている。検討委員会だとか、この暑期中熱心に市民の方も運んでいただいて、深く読み込んで下さったご感想等も全て目を通させていただいた中で、それを参考にしながら、最終的には私たちが教科書を選ばせていただけるといふ意義は、社会でいろいろと活躍して、多様な活動をしている方とも触れ合いながら、また自分たちが子育てに真っ盛りでありながら、子どもたちの視点というのも生で感じながら選んでいくということが私たちの責務かと思ひ、見てまいった。

そういう中で私が全体を見渡して鎌倉市に最もふさわしいのではないかと絞りこんだものが、教育出版と日本文教出版、光村図書、東京書籍の4者である。それらを中心に皆様が細かいところ、下平委員も全体を通して総括していただいたので、補足する部分だけになる。

光村に関しては装丁の美しさや文章の格調の高さというのはもちろん感じたし、中には養生訓の漫画が入っていたりだとか、その中で欲をこらえろとか、中学生に一番難しくして重要な心のマネジメントみたいなものにさりげなく触れているのはよいと思ったり、教育出版と日本文教出版に関しては、この8者の中で最も中学生目線で中学生がすっと入りやすいような作りかと思った。特に教育出版は1年生の最初、ついこの間までは6年生だった子どもたちが手にするものとしては、最初から平仮名ばかりの章から入っており、改めてあなたが産まれて来たことにこんなに沢山の方が祝福したのだというところから入っているのが非常に好感が持てた。まず自分の命を大切にするというところが、他人を大切にということにつながっていくと感じた。そういう意味で、いじりといじめの違いを漫画で取り上げたりとか、先ほどの都道府県のゆかりのある人というのも非常によいと思った。こういうのはあとあと大事にして振り返ったりできるのではないのかと思う。

あと日本文教出版の「さかなの涙」というものがあり、これは光村だとか、他でも取り上げているのだが、私はいじめは人間の社会だけのものかと思っていたのだが、勉強不足で魚の世界もそうなのである。では中学生の世界にいくとどうなるのか、というところまでつなげて活用してらっしゃるのがよいと思った。

それから東京書籍に関してだが、日本の国民的スポーツでもある野球というのがいろいろなところで題材に挙がっており、長嶋茂雄さんだったりイチローさんだったり黒田投手だったり、いろいろな人が挙がっているが、やはり東京書籍に挙がっているスポーツ選手は、比較的まだ子どもたちが現役の活躍を見ている人たちが多くと思ひ、その方が長嶋さんあたり

よりは親近感が感じられると思ったりしている。あと出産とか生命の誕生というのも各者扱っているが、東京書籍では母と子の共同作業であるということを出しており、その他、先ほど出た杉原千畝さんと小辻節三さんのところも、鎌倉市との独自の教材との連動があると思っ

ている。その他、学研では町内会デビューなんていうのも中学生の生活に根差していたりとか、あと日本教科書の先ほど説明があったような「リョウとマキ」という3年間のラブストーリーが展開されていたりして、こんなのは本当に中学生は興味を持って読むだろうと思っただけだが、これを道徳的な話し合いに展開していくのにまた少し難しいのかと思ったり、読み物として面白いのと、それが授業で活用しやすいというのはまた少し違う視点なのかと思っただけ。そうやっていろいろ考えると、ではどれがよいのかというのが非常に迷って、これがよいあれがよいというのを繰り返して、この数週間過ごしてきたのだが、忘れてはいけないのは、これは私たちも、検討委員会の方もそれから市民の方々も多くの方が大人なのである。この教科書を使う時間が遠い過去になっている者ばかりなのだが、実際に使う子どもたちにとって一番訴えかけやすく、それから先ほど申したような議論に展開しやすい題材としてふさわしいのは何かと考えると、私は日本文教出版と東京書籍がこの4者の中でも、よりふさわしいという結論に至った。

安良岡教育長

最後になるが、私がこの道徳の教科書を読む中で、先生方がこの教材を使ってどういうふうに子どもたちに投げかけ、子どもたちに考える場面を作っていくのかということを見ると、本当に先生方が読み込まないとなかなか授業の展開が難しいのだろう。子どもたちが読んだだけで考えてしまうのではなく、そこからどういう考え方を持たせていくのか。その辺が、道徳教育の計画を推進していく中で、学校として、あるいは学年としてどういう授業の組み立てをしていくのか。どこでどんな教材を使うのか、というのがこれから私どもにとっては重要な課題になっていると思って読ませていただいた。

どこの教科書会社も、共通の題材を使っているところがいくつかある。やはりこういうところでは各教科書会社とも、子どもたちにとって必要なものという位置付けなのかというふうには思った。また、こここのところ教科書を作る中ではやはりユニバーサルデザインということで、そういうものに大変配慮されて作られていると思っている。

そういう中で、私はまずは光村の教科書を開いた時に、他の教科書会社と比べると、この部屋は蛍光灯で、学校はLEDの照明になりつつあるのだが、目に優しくそして子どもたちにとっても見やすい配置が、これまでの取組の中で活かされているのだと思った。それから東京書籍と日本文教出版については、各題材の教科書の右側に、はじまりの所を色分けして項目が分かりやすくされている辺りが、子どもたちにとっても、今日皆で道徳を始めるのはこのことかと、とても意識しやすいというふうに思ったところである。そして学研はB4版という大きな表紙を開いた時に、この広さ大きさというもの、あるいは空白の使い方というところが、子どもたちにとってはどこか余裕が持てるような内容になっているというふうに思ったところである。であるので、全体を見て行く中で、順番にいくと東京書籍、光村、日本文教出版、学研という辺りが、特に先生方にとっては子どもたちを指導しやすいというふうには思った。

その中で、日本文教出版の2年生の42ページに出ている『リスペクトアザーズ』というものがあがあるが、これは平成24年度の法務省人権擁護局全国人権擁護委員会連合会主催の法務大臣賞を取った作品なのだが、この作品を書いた子が、実は鎌倉の中学生なのである。昔この24年度の時にこれを使って表彰されたので、中学校でいくつかの学校がこのリスペクトアザーズを使ってその当時少し授業していたということもあった。そういうのをみると、鎌倉の子ども、ここには鎌倉とは書いてないのだが、私もこの「リスペクトアザーズ」という言葉がずっと頭の中に残っていて、なかなか日本語にするとどういう意味でどういう場面でどう使うのかというのは子どもたちには分かりにくいのだが、題名が非常に心に残っていて、ここに選んでいただいたというのは少し印象に残っているので、お話をさせていただいた。

以上、各教育委員のお話を聞いたところでは、皆さんそれぞれ3者から4者、5者、それぞれの思いがあったようだが、皆さんのご意見をまとめると、今後推薦していきたい図書としては東京書籍、光村、日本文教出版という3者になると思うが、いかがか。その3者を、更にもう少し内容について皆さんで協議をしていきたいと思うが、よろしいか。

(異議なし)

安良岡教育長

では、その3者について、皆様も鎌倉の子どもたちにと共通したご意見であったので、もう少し協議を進めてまいりたいと思う。どなたが、あるか。

下平委員

東京書籍に関してなのだが、ここは表紙の裏が折り込みページになっている。これが使いやすいのか、逆にこれが使いにくいのかというのは気になる。それと、最後のページに中学1年生は赤で、2年生はブルーで、3年生は黄色で切り取り線がついていて、学びを自分で振り返って、場合によっては提出したりできるようになっているのだが、この辺に関しては検討委員会の方でご意見があったら伺いたい。

教育指導課指導主事

まずはじめにお話のあった、話し合いの手引きの見開きの部分については、教材の話し合いの時でも、それを見ながら司会を進められるということで、生徒たちの活動をサポートするので、よいのではないかとということであった。少し切れてしまうのかという心配も出てきたが、どちらかという、生徒の活動を支えるという点ではよいという意見が多く出た。巻末の「自分の学びを振り返ろう」という部分なのだが、こちらに関しても割とどの教材についてとか、項目についてというのが明示されていないので、先生方が必要だと思うタイミング、例えば学期末や学年末のタイミングで使うことができるのでよいのではないかと意見が出ていた。

下平委員

確かにこれを開くと、話し合いをどのように進めていこう、司会はどのように進めていこうというのがあって、話し合いの時にこのページを開いて、他のページを開いても隠れない

で済むので、使いようによっては非常に効果的かと感じた。

山田委員

根本的なこととしてお聞きしたいのだが、1時間の道徳の授業でこれらの教科書を使って、これらのうちの一つの教科書を使って、どのように授業が展開されるのか。本当に簡単で結構なので、例えば最初に一つの単元を、みんなでお話を読んでからメモをして話し合いをするのかとか、どのような時間の使い方、教材の使い方が想定されるかを、教えていただきたい。

教育指導課指導主事

今年度、小学校でも実際に道徳の授業が行われている。中学校でも似たような形で進むと思うのだが、まず教材を全体で読み合っていく、教材が持つ道徳的価値、そちらを読み取っていく中で、自分事として捉えていく。そして、自分事として捉えた意見を、子どもたち同士が話し合っていく。そして、全体でシェアをして、最終的にもう一度他の友だちの意見を聞いたりした中で、自分事としてもう一度考えていって、一人ひとりがその道徳の教材、あるいは道徳的価値をどういうふう考えたかというのが、大体1時間の流れになる。

齋藤委員

私がふっと見て、「今日から始まる」という詩が載っている。そこに「あなたに会えてよかった」、この言葉がとてもよい。今日皆さんにお会いできてよかったと、そんな思いを持つくらいである。「今日から始まる何かよいこと」という第一編が閉じられてるのだが、その次は「みんなに会えてよかった」。最後は、「私に会えてよかった」というのがある。そういうことも考え、やはり子どもたちが取りかかりやすい、身近に感じられるものを味わえるのではないかと、そんなことも改めて思っている。

この最初の「話し合いの手引き」というのは、たまたま手引きであって、これを上手に、分からない場合はこれに合わせて使っていく、子どもたちが話し合いの柱としてどんどんこの形に沿っていくのも一つ。それからそうではなくて、今回はこんな話し合いにしよう、こんなことを考えていこうと、新たなステップになる部分かと、そのようなことも幅広く捉えればよいのかなと感じている。

やはり一番大事なのは、自己を見つめていくこと、そして相手を思いやること、そんなことを感じられる子どもたちが成長していってくれることを望んでいる。それを感じさせるのが東京書籍の部分、もちろん光村もよいところがあって捨てがたいものがある。やはり光村の読み物、昔はよく物語があって、その物語の心の移り変わり、そういうものを扱うことによって道徳教育はたくさんできた。そして、よいクラスができた。子どもたちもしっかり育っていったと思っている。そういうことから考えていくと、物語教材も多い光村もよいのだが、やはり少し資料的なものが多いかと。少しこの教材を扱ってその次こんな発展的な考えもできると、そこはゆとりがある時は、しっかりと読み取りまた考えることができるのだが、道徳の時間1時間の中で、またそれ以外というのはきついと、そこが少し残念だというような思いも持った。

朝比奈委員

いろいろ教科書のどこに注目したらよいのかと思った時に、道徳なので最初の、特に中学1年生の道徳の教科書、小学校から変わって一番最初に開けるページはもちろん構成で、各者最初はもくじであったりするが、ほとんど全ては最初のところに詩のようなものが書かれていて、ここで一つ心を整えるみたいなの、そういう工夫になっていると思う。どれを扱ってのがよいとかそれだけの話ではもちろんないのだが、そういった導入のテクニックというか、先生がどんなふうにもこの授業を進めていくのだろうと想像を広げていくと、確かに光村はすごく読み物も読みごたえがある。何度も申し上げるが、やはり教科書としては国語の教科書が強い出版社さんであると思うので、その辺のノウハウはおありだと思うのだが、せっかく道徳の授業、これは先生の裁量というか、いろいろ教師に委ねられること、望まれることたくさんあるのだと思うのだが、楽しく授業を進めていく上でやはり少し体裁も、明るい体裁がよいだろうと思う。光村の特殊な工夫、紙質、紙の色であるとかフォントの特徴もよろしいが、少し東京書籍の版も大きくなっていることもあって、字がすごく読みやすい。学校の教室の照明がほぼLED化したことで変わるかもしれないが、紙も白くて見やすい、これは大きな点だと思う。最初の見開きになって広がっていくところの工夫であるとか、先ほどからお話があがっているが、そういう点ももちろんそれぞれの出版社さんが工夫されている、他にもよろしい点があるのだが、絞るとしたら3者から更に私が好印象を持ったところとしては、この見やすさ、明るい体裁、こういう点も踏まえて東京書籍がよろしいと私は感じた。

下平委員

今おっしゃってくださったが、東京書籍は生徒の作文とか、それからいろいろな投書文などが豊富に盛り込まれていて、いろいろな人の考え方、ものの見方が得られる。それを基に話し合いが進められるという点と、あと生徒の作文が学校行事などに沿って、季節ごとにうまく取り上げてあると思った。それと、合間合間にロールプレイング、役割演技をしながら体験的、体感的に学習できるような工夫もなされていると感じた。先ほど折り込みページと巻末のシートがどのように活用できるのかということを知ったが、それも先生方が活用して下さるようであれば、非常に使いやすいし、それから心情円も活用の仕方によっては非常に効果的に使えると思った。そういう意味でもバランス、それから非常に色合いもきれいで、東京書籍は好感が持てる教科書だというふうに感じた。

安良岡教育長

私は、先ほど日本文教出版の鎌倉の子どもがということと、全体的に見て行くと途中に「プラットホーム」というのがあって、この辺りは先生方が授業で組み立てる、あるいは子どもたちも自分を振り返るという場面で使いやすいかということ。それから別冊の道徳ノートが、小学校の時は別冊は子どもたちにはよくないということで、別冊ではない教科書になったのかという思いがあるが、中学生だとこの大きさでこの教科書に入るこういうのであれば、別冊も問題ないかと思っているところである。

それから、私はやはりもう一つは東京書籍は、今下平委員からあったように、子どもの作品がいくつかあり、その中で自分たち、子どもたちの活動を通して何か考える場面というの

が、子どもたちにとっても大変有効なのかと思う。自分たちの学校をどうしたいのだろう、あるいは自分たちの学校で何が課題になっていてこんなことができるのではないか、というところへの取組というのに、そういう子どもたちの作文というのは大きな力が働くのかということである。

どちらかというふうに私もなるのだが、先ほど下平委員からあったように、東京書籍の巻末のところに「自分の学びを振り返ろう」ということで、切り取って使える、こういうところは、先生方にとっても、あるいは自分たちで考えていく時に、こういうものがうまく授業の中で使えるかということを見ると、別冊とどちらがよいのかと考えた時に、私も東京書籍の方がより有効な教材、教科書になるかと思っているところである。他に、教育委員さんから、まだ補足であるか。

(補足なし)

安良岡教育長

そうすると、今教育委員の皆様からのご意見をお伺いすると、鎌倉市では東京書籍の教科書がよいのではないかというお声が多かったようであるので、鎌倉市教育委員会としては、教育委員の協議で教科書を採択するにあたっては、東京書籍の教科書がよいのではないかという方向でよろしいか。ご意見いただきたいと思うのだが、よろしいか。

(異議なし)

安良岡教育長

それでは鎌倉市の教育委員会においては、平成31年度使用する中学校教科用図書については、「東京書籍」を選定することとしたいと思う。以上で協議を終了する。ただいまの協議結果をもとにして、事務局で資料の作成をお願いしたいと思う。議案第10号の審議に移りたいと思うが、事務局の資料作成のため、ここで休憩を取らせていただく。資料の作成の準備もあるので、再開時間は11時とさせていただきますと思うので、よろしく願います。

(協議事項「平成31年度使用中学校教科用図書「特別の教科 道徳」の選定について」は、同意された)

(休憩)

2 議案第10号 平成31年度使用小・中学校及び特別支援教育関係教科用図書の採択について

安良岡教育長

7月定例会を再開させていただく。先ほどお諮りしたとおり、協議・採択を先に行わせていただくので、次は日程の2、議案第10号「平成31年度使用小・中学校及び特別支援教育関係用教科用図書の採択について」を議題とする。それでは議案の説明について願います

る。

教育指導課長

日程第2、議案第10号「平成31年度使用教科用図書の採択について」その内容をご説明する。議案集は2ページから11ページを参照願いたい。

4月の教育委員会で、「平成31年度使用教科用図書の採択方針」を議決いただいた。その中で、小学校用教科書については、平成26年度に採択した教科用図書と同一の物を採択すること、中学校用教科書については、平成27年度に採択した教科用図書と同一の物を採択することとする。ただし、中学校では平成31年度から「特別の教科 道徳」の授業が行われるため、平成30年度は中学校「特別の教科 道徳」の教科書を採択することとした。

また、特別支援教育関係用教科用図書については、鎌倉市特別支援学級設置校長会において、文部科学大臣から県教育委員会を通して送付された特別支援学校用（小・中学部）教科書目録、一般図書一覧、一般図書契約予定一覧、新たに掲載された図書等を基に調査研究を行い、その報告を受けて採択することとした。

この採択方針を受けて、議案集3ページに記載の「平成31年度使用小学校教科用図書一覧(案)」、先ほど選定していただいた平成31年度使用中学校教科用図書「特別の教科 道徳」を含め一覧表にまとめたお手元の「平成31年度使用中学校教科用図書一覧(案)」、また、議案集5ページから11ページの「平成31年度使用特別支援教育関係用教科用図書一覧(案)」をあわせて、平成31年度に使用する教科用図書として採択するものとして提案する。

(質問・意見)

安良岡教育長

参考にお聞きしたいのだが、特別支援教育関係用教科用図書が、このように、子どもの一人ひとりのニーズに応じた教科書を選ぶことができるようになって大変よかったと思っているが、何か学校からの声で、こんな部分が子どもたちにとって大変有効になっているといった報告があったら、ご紹介いただきたい。

教育指導課指導主事

やはり、一人ひとりのその時の学習や状況によって教科書を選べるということが非常によいと、現場からは声が上がってきている。同じ教科書を使っているけど、得意なところ、苦手なところというのがそれぞれの生徒によって違うので、そういうことも考えて、この先つきたい力というのを見据えて、教科書の一つひとつの教科、それぞれ選ぶことができるのがよいという声が上がってきている。

安良岡教育長

具体的に自分の経験でもよいのだが、何かあるか。

教育指導課指導主事

例えば、一番多くあるのが国語で、文章を書くというのが非常に苦手な生徒が多い。始め

は短い文章から少しずつ練習していった、段々長いまとまりのある文章を書くことができるような、そういう教材になっているものは、例えば国語であれば「ゆっくり学ぶ子のための「こくご」3」とか「4」とか。あと、文部科学省の検定本でもある、この星3星4、この辺りは、国語の力を着実に付けていくのに非常に適している。一方で、漢字だとかことわざといった語彙を増やすとか、そういう力が必要なお子さんもおり、そういう場合は別途、例えば国語の上の方で「四字熟語まとめノート」だとか、「漢字がたのしくなる本シリーズ」といったように、その子どもによって必要な力を付けるための教材を選ぶことができるのがよい。あとは、理科とか社会といった教科書になると、写真を多く掲載していて、視覚に訴える物、具体物がよく分かるようなものというのがあるので、そういった点がよい。

安良岡教育長

一人ひとりの子どもの特長を伸ばせるような教科書を探していただくというのは、先生方にとっても大変だと思うが、やはりそれが子どもたちにとっていろいろな部分で力になっていくと思うので、今後もよろしくお願ひしたい。

(採決の結果、議案第10号は原案どおり可決された)

3 報告事項

(1) 教育長報告

安良岡教育長

報告ということではないのだが、昨日愛知県の豊田市で小学校の1年生が、学校の近くの公園に皆で虫取りに行き、校外活動をして学校に戻ってきたところ、気分が悪いということで、熱中症で亡くなったということがあった。そのようなことを受け、学校も暑い中で授業を行っているので、夏休みまであと2日になったが、まだ授業があるので熱中症に注意して残りの1学期の学校生活を送るよう、校長に改めてお願ひしたところである。また、中学校は夏の大会が進んでおり、湘南大会、県大会、全国大会とつながっていくので、上位の大会に出るチームがあれば、壮行会等行っていきたいと考えているところである。

(2) 部長等報告

教育部、文化財部ともに特になし。

(3) 課長等報告

ア 学校敷地内のブロック塀の安全確保対策について

安良岡教育長

報告事項のア「学校敷地内のブロック塀の安全確保対策について」報告をお願いします。

学校施設課長

議案集 12 ページ、「学校敷地内のブロック塀の安全確保対策について」説明する。前回の定例会で報告したとおり、本市の小・中学校敷地内を調査した結果、第一小学校、第二小学校、御成中学校及び腰越中学校、4校6箇所、高さ1.2メートルを超えるコンクリートブロック塀を設置していた。このため、緊急修繕が可能な箇所についてはブロック塀を撤去し、ネットフェンスを設置するなどの安全確保対策を施し、7月13日に完了した。第二小学校の一部については、技術部門から緊急修繕での対応は難しいとの見解が示されたことから、現在安全確保や工法等について管理部門に協力を依頼し、早期対応に向けて取り組んでいるところである。なお、当該箇所に至る前面にはフェンスがあるが、一部ない所もあるため、この対策が決定するまで、同様のフェンスを設置することとし、児童や周辺住民が常時進入できない状態にする。

次に、通学路沿いにあるコンクリートブロック塀については、建築職の職員を中心とした述べ70名で所有者を個別に回り、既存の塀の安全点検のためのチェックポイント及び市の補助制度のお知らせをポスティングした。市民からの通学路沿いのブロック塀に関する問い合わせや相談には、建築指導課が対応している。

(質問・意見)

下平委員

私の住んでいる地域も高齢化が進んでおり、例えば無人になっている住宅などがあり、昔ながらのブロック塀があつて、そこを小学生たちが通っている光景を目にするのだが、今おっしゃっていただいた通学路沿いのブロック塀に関しては市が対応してくださるということなのだが、既にどうなのか。いくつか問い合わせやいろいろな声があがっているといったことはあるか。

学校施設課長

通学路沿いのブロック塀については、問い合わせや相談があるとすぐに所管の建築主導課が現場確認に赴き、状況を確認した後、ブロック塀は民地にあるものであるため、市が全額を出して改修するというわけにはいかないのだが、先ほどご説明した補助制度を活用して改修をお願いしますというようなスタンスで臨んでいると聞いている。

下平委員

建築指導課に連絡が入るということだが、やはり通学路沿いだと教育委員会でも気を付けておかないと、それが倒れてきたりしないかと心配である。その辺の連絡は、きちんと来ているのか。

学校施設課長

事故後1月経とうとしているが、特段これまで学校施設課にはブロック塀の危険について相談に乗っていただきたいという連絡は来ていない。

教育部長

補足をさせていただくと、先般校長会に建築指導課の職員に来ていただき、今の学校施設課長の報告のような取組をしていることと、集計が終わったら学校と情報共有をしていきたいと言っていた。どういう場所が危険なのかの情報共有をしながら、学校の通学路の安全確認確保を教育委員会としてはしていきたいと考えている。情報共有は、今後していくという予定になっている。

(報告事項アは了承された)

イ 鎌倉市就学支援委員会委員の委嘱について

安良岡教育長

次に、報告事項のイ「鎌倉市就学支援委員会委員の委嘱について」報告をお願いします。

教育指導課長

報告事項イ「鎌倉市就学支援委員会委員の委嘱について」ご報告する。議案集の14ページ「鎌倉市就学支援委員会委員 委嘱者名簿」を参照願いたい。

本件について、鎌倉市就学支援委員会についてはすでに委嘱を行ったところだが、その後諸般の事情により新たな委員が必要になったため、委員の追加委嘱を行ったものである。

具体的な内容については添付した名簿のとおり、小学校教諭1名について委嘱を行った。就学支援委員の委嘱については、本来ならば当委員会の議決により決定すべきところだが、就学支援委員会開催までに当委員会の開催が予定されていなかったこともあり、急を要したため、鎌倉市教育委員会事務の教育長への委任等に関する規則第2条第2項の規定に基づき、平成30年7月5日付で教育長がその事務を臨時に代理し行ったことを報告する。

なお、任期については鎌倉市就学支援委員会条例第3条第1項で2年となっているが、今年度委嘱した他の委員と終了時期を合わせるため、平成30年7月5日から平成32年4月30日までとする。

(質問・意見)

安良岡教育長

なぜか、という部分についての説明を少しお願いします。

教育指導課長

来年度、就学予定のお子さんの中に、難聴のお子さんがいらっしゃる事が分かり、当初

委員ではなかった本市の難聴級、鎌倉市大船小学校にだけあるのだが、難聴級の担任をしている、ここの名簿に載っている教諭に、専門的な知識をお持ちなので、意見をいただきたいということになり、急遽委員として来ていただくことになったものである。

安良岡教育長

今、難聴級は大船小学校だけにあり、そこの担任をしている方ということである。今の小学生が中学校に行った時には、中学校に難聴級を開級しなければいけない状況にはなるかと思う。

(報告事項イは了承された)

ウ 行事予定 (平成 30 年 7 月 18 日～平成 30 年 8 月 31 日)

安良岡教育長

次に、報告事項のウ「行事予定」について、記載の行事予定について特に伝えたい行事等あればお願いします。

教育部次長兼教育総務課担当課長

教育部関係の行事については、議案集 15 ページから 23 ページに掲載させていただいている。もうすぐ夏休みということで、小・中学生向けの各種イベントがいろいろ出ているので、ご覧いただければと思う。夏休みを利用した教員向けの各種研修会が、17 ページから 20 ページに出ている。その中の 19 ページ 46 番、8 月 8 日だが、朝比奈委員に講師をお願いし、浄智寺をお借りして、鎌倉郷土研究研修会というのを実施させていただく。浄智寺の見学や講話、体験活動を予定させていただいている。こちらをご確認をいただければと思う。よろしくお願いします。同じく、教育センターの教育課題研修会ということで、下平委員に 8 月 21 日、お願いを申し上げている。

安良岡教育長

教育研修、どうぞよろしくお願いします。

歴史まちづくり推進担当担当次長兼文化財部次長

文化財部の関係は、議案集 23 ページから 24 ページに記載している。まず文化財課の事業で 90 番、91 番、こちらは例年恒例で行なっている遺跡調査速報展である。学習センターの地下ギャラリーで、8 月 8 日から 12 日まで、遺物等の展示、前年発掘調査をした市内の遺跡の速報展である。こちらの最終日に、ホールで研究発表会ということで、それぞれの調査地区の発表を行なうとともに、最後に前文化財専門委員会の委員長であった河野先生の講演を今年は予定しているところである。

続いて、国宝館については、前回の定例会でご紹介させていただいた。

おめぐりいただき、94 番と 97 番。こちらは国宝館と歴史文化交流館の連続講座というこ

とで、97番の交流館では「やきもの入門講座」。こちらは金曜日に行い、翌土曜日には国宝館で「仏像入門講座」を行う予定である。こちらは、それぞれ初級の初歩の初心者向けの入門講座となっている。いずれも8月1日の広報かまくらで募集する予定となっている。

(質問・意見)

安良岡教育長

「こども仏像教室」というのは、親子ではなくて子どもだけなのか。

歴史まちづくり推進担当担当次長兼文化財部次長

93番、こちらは月曜の国宝館の休館日に親子でお越しただいて、仏像の絵を描いていただく催しになっていて、例年好評で毎回人気のある講座となっている。学芸員の説明を行った後、写生していただくことになっている。

安良岡教育長

教育センターの食育研修会について、今年は、中学校給食の工場で研修会をやるということか。中学校給食が始まって、初めての試みであるので、伺いたい。

教育センター所長

食育研修会なのだが、ここ数年は漁業では蛸の後処理だとか、去年は農業体験ということで、いろいろさせていただいているのだが、平成29年度11月からご案内のとおり、学務課で一生懸命準備をし、中学校の給食が始まったところである。そこで、中学校の先生たちを中心に、このようなことに気を付けて、こういうところで配慮しながら給食を作っているということをご見学いただこうと企画をした。中学校は1名、それと後は希望の方ということなのだが、学務課の栄養士や、ハーベストの会社の方からもご説明いただくという形で、夏季休業中で残念ながら試食はできないのだが、検便等していただいて、それも手間なのだが、こういうことを調理する方は気を付けて、栄養士の方々もこういう場で働いているということで、食育を理解していただく一環にしたいと考えて企画している。

安良岡教育長

この研修会に参加する方は、検便をしなければいけないということか。

教育センター所長

そのとおりである。

安良岡教育長

それで、調理場の中まで入れるという。

山田委員

特定の行事についてはではないのだが、いくつか子ども向けの行事もあるとおっしゃって

たが、この告知というのは広報かまくらに載っているのか。要するに、対象となる子どもたちに直接告知が行くような、以前も SNS 等を使って子どもに直接講座があるということを知らしめることができないかという意見を申し上げたと思うのだが、何かその後情報提供に関して進展があったら教えていただきたい。

教育部次長兼教育総務課担当課長

いろいろ、夏休みに子ども向けのイベントがあるが、周知の方法としては、広報かまくらにももちろん載せている。それ以外にも学校に個別のチラシを配ったり、ポスターを貼ったりということをお願いしている部分と、全てではないのだが、教育総務課のツイッターでつぶやいたりもしている。

安良岡教育長

あと7月26日(木)、かまくら子ども議会があるので、子どもたちの質問の答えをいろいろ考えているのだが、なかなか難しい質問が多く、答弁に困ってしまう、どうしようかと考えている。ぜひ、小学校、中学校、子どもたちが一緒に考えて、さまざまな市長への質問、また教育委員会文化財部にも質問がある。子どもたちが経験できるよい機会になるようにしていきたいと思っているので、よろしく願います。

(行事予定報告はそれぞれ了承された)

安良岡教育長

以上で、日程は全て終了した。これをもって7月定例会を閉会する。